



2017年11月号

ウトナイ湖通信

No.162

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

第2回「野生動物に学ぶ救護セミナー」を開催しました。

9月24日(日)、今年度第2回目となる、救護セミナーを開催しました。今回は、「身近な猛禽類を学ぼう」をテーマに、まずは道央鳥類調査グループの方が講師となり、身近な猛禽類5種(オオワシ・オジロワシ・ミサゴ・ハヤブサ・チゴハヤブサ)の生態と識別について、続いて環境省職員により、北海道における傷病希少種の現状についてお話をいただきました。苫小牧市内をはじめ、札幌市、恵庭市、江別市などから34名もの参加があり、身近な猛禽類の内容ということもあって、非常に活発な質疑応答や情報交換などが行われ、有意義なセミナーとなりました！

(次回は「身近な外来生物」をテーマに、今年度最後のセミナーを11月26日(日)に開催予定です)



セミナーの様子

5回目となる「ウトナイ湖・渡り鳥フェスティバル」を開催しました！

ガン類やカモ類、ハクチョウ類などの渡来シーズンにあわせ、10月7日(土)～9日(月・祝)の3連休に、さまざまな内容で開催しました。

「北海道★ラムサール条約湿地★リレートーク」は、道内の条約湿地にあるビジターセンターなどで活動する皆さんがウトナイ湖に集まるのを機に企画したものです。クッチャロ湖や宮島沼など9カ所の方々がそれぞれの特徴ある自然を紹介し、マガンを数える必殺技？など面白いネタも飛び出しました。また、「渡り鳥講座」では、オーストラリアと日本との間を渡るオオジシギの生態や個体数減少について、日本野鳥の会の職員がお話しました。

他に、とまチョップも参加した「渡り鳥クイズ大会」、マガンやコハクチョウを観察した「渡り鳥ウォッチング」などにも、多くの皆さんが参加くださいました。どの日もまずまずの天候となり、水鳥でにぎわうウトナイ湖の秋を満喫いただけたようです。



クッチャロ湖からは剥製を前にコハクチョウのお話



青空の下で開催したクイズ大会。
とまチョップに子どもたちも大喜び



階段状のデッキから望遠鏡で水鳥ウォッチング



【自然観察路情報】

2017年10月19日(木) 10:00~12:00

観察された生きもの

《野鳥》

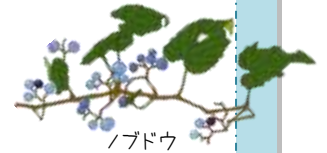
マガン、コハクチョウ、トビ、コゲラ、アカゲラ、キクイタダキ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ
エナガ、ゴジュウカラ、キバシリ、クロツグミ、キセキレイ、ベニマシコ、アオジ(以上、姿)、マヒワ(声)

《植物》

ユウゼンギク、エゾカワラナデシコ(以上、花)、コナラ、ミズナラ
エゾヤマザクラ、ニシキギ、シラカンバ、ヤマモミジ、イタヤカエデ(以上、紅葉や黄葉)
ズミ、チョウセンゴミシ、マユミ、ノブドウ、キタコブシ、ヤマウルシ、ツリバナ
ツルウメモドキ、ケヤマウコギ、イチイ、カラコギカエデ、マムシグサ(以上、実やタネ)

《昆虫・その他》

モンキチョウ、アキアカネ、ノシメトンボ、エゾシカ、ニホンカナヘビ



【水鳥カウント調査結果】

2017年10月13日(金) 15:00~16:30

観察された水鳥、ワシ・タカ類、ほか * ()内は個体数、(+)は「以上」の意味

ヒシクイ(75+)、マガン(1177+)、コハクチョウ(13)、コハクチョウ(367+)、オオハクチョウ(40)
ヨシガモ(34+)、ヒドリガモ(300+)、マガモ(55+)、ハシビロガモ(9+)、オナガガモ(30+)
コガモ(10+)、ホシハジロ(85+)、キンクロハジロ(48+)、スズガモ(27+)、カワアイサ(4)
カイツブリ(10+)、カンムリカイツブリ(8+)、ハジロカイツブリ(1)、カワウ(4)、ダイサギ(28)
コサギ(1)、オオバン(50±)、トビ(1)、オジロワシ(1)、カワセミ(1)、
種不明ガン類(3600+)、種不明ハクチョウ類(168+)、種不明カモメ類(3)



11月の自然予報



例年だと、湖は今月いっぱい水鳥たちでにぎわいます。カモ類のオスは美しい繁殖羽に変わり、見分けやすくなります。



水鳥以外の冬鳥との出会いも楽しみです。オオワシは上旬に姿を見せるでしょう。



昨年に続き、冬の到来が早いようです。木々は上旬に葉を落としてしまうかも知れません。明るい林や湖岸では、ツルウメモドキやチョウセンゴミシなどの実が目立つようになるでしょう。



ハンノキなどの実を食べるエゾリスに出合えるかも知れません。一方、シマリスはそろそろ冬眠に入るころ。じきに姿が見られなくなるでしょう。



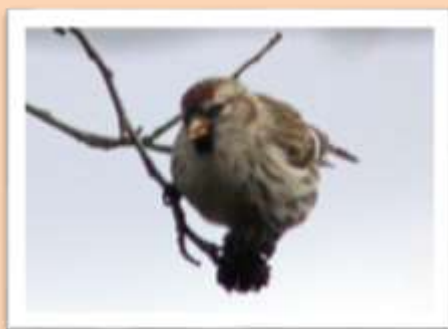
オオワシの若鳥。今年は何日に初確認されるか



冬眠しないエゾリス。ハンノキの実をかじる

【ベニヒワ】

スズメより小さい冬鳥。雌雄ともに頭頂に赤い部分があり、さらにオスは頬や胸も赤い色をしています。ロシアなどで繁殖し、主に北日本に渡って来ますが、年によって数の増減があり、全く見られないこともあります。時にマヒワとも同じ群れをつくり、ウトナイ湖周辺ではハンノキの種子を食べていることが多いようです。



* 当センターが開館してから15周年を迎える今年はそれにちなんでクイズを出題していきます！
あなたもウトナイ博士になれる？かも。

Q. 傷病鳥獣の救護施設でもある当センター。2002年に開設後、これまでに意外な野鳥も搬入されています。さて、当センターへ実際に運び込まれた、その意外な野鳥とは、次のうちどれ？

(あ) ハイイロペリカン



(い) コウノトリ



(う) コアホウドリ



答えは最後のページにあるよ。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

ホシガラス

2017年10月 1日 10:30頃

苫小牧市内の民家にぶつかり、動けずにいたところを市民が発見

体重 178g



10月1日 14:00頃、当センターへ搬入。明らかな外傷は認めなかったが、全身を激しく打ったためか、沈うつ状態だった。しばらく安静状態を保ち経過観察したが、自ら餌を食べる気配がないため、少量ずつ強制給餌を行った。

10月3日 徐々に活発な動きをみせるようになり、自ら餌を食べるようになった。

10月4日 十分な飛翔能力を確認し、リリースにいたる。



ホシガラス（スズメ目カラス科）

北海道では一年を通じ、高山のハイマツ林、針葉樹林、ダケカンバ林などに生息しています。一般に平地で見るとはごく稀ですが、ハイマツの実が不作の年には、秋から冬に低地へ漂行するものが増えることから、今回この時期に、苫小牧市内で保護されたことには、このような背景があるのかもしれませんが。

イベント情報

自然案内ボランティア講座

～水鳥のことを伝えよう～

日時：11月12日(日)10:00～14:00

定員：申込み先着10名(高校生以上)

内容：水鳥をテーマとした自然案内(来訪者に自然のことを伝える)プログラムを体験します。



第3回 野生動物に学ぶ救護セミナー

～身近にある外来種問題～

日時：11月26日(日)10:00～12:00

定員：申込み先着20名(高校生以上)

内容：①外来種とは何か、その問題点と課題

②身近にある外来種問題

～苫小牧の事例から～

市民ギャラリー

苫小牧の水鳥絵画展

日時：11月1日(水)～11月30日(木)

展示：苫小牧市環境生活課

お知らせ

「オオハクチョウの渡来日予想クイズ」結果発表・・・今年も10月12日でした！

9月に当センターで行ったこのクイズ。応募総数は75人(枚)で、予想は10月3日から10月26日にわたり、最も多かったのは10月10日で15人(枚)でした。

そして、レンジャーがオオハクチョウを確認したのは・・・10月12日。これは昨年と同じ記録です。3人の方がこの日を見事に的中させ、厳正なる抽選の結果、札幌市にお住まいの湯井友美さんが選ばれました。ご夫婦で来館されたとのこと。ご実家の庭にはシジュウカラがやって来るそうです。湯井さんには野鳥カレンダーや図鑑などの記念品をお渡ししました。

なお、このクイズは当センターで開催した「ウトナイ湖・渡り鳥フェスティバル」のイベントとして実施したものです。



見事に渡来日を予想された湯井さん。おめでとうございます

◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。

また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前9時～午後5時 / 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

